

# 東日本大震災

## 100人の証言

3・11 ひとびとは何を見たのか

AERA臨時増刊 No.15  
2011.4.10号  
定価500円

# AERA

緊急増刊

私たちは  
どう生きていけば  
いいのか

### 27人の提言

東 浩紀、内田 樹、枝廣淳子、勝間和代  
金子 勝、萱野稔人、玄田有史、河野太郎  
近藤 誠、佐々木俊尚、佐藤 優、竹中平蔵  
富永 愛、中田英寿、平野啓一郎、堀江貴文  
益川敏英、馬淵澄夫、三國陽夫、村山 斎  
山折哲雄、養老孟司

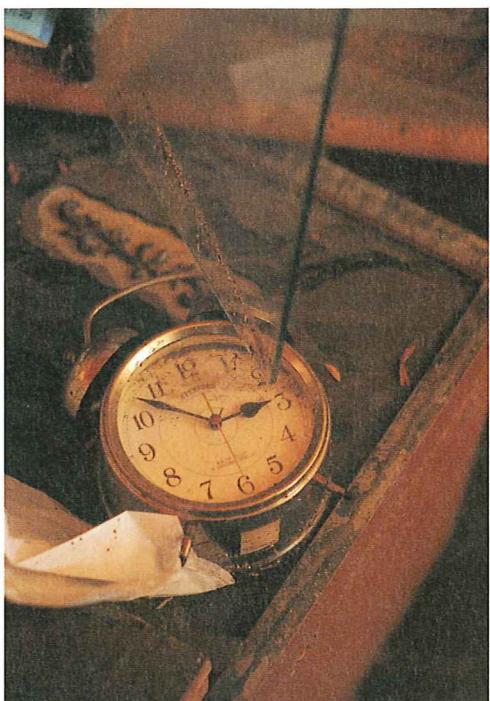
香山リカ 絶望の中で生まれる希望

高村 薫 悲しみと生きる

藤原新也 被災地で見た破壊と孤独

対論・それでも原発は必要か

朝日新聞出版



**枝廣淳子** ●環境ジャーナリスト

## 長期的に自然エネルギーへ 短期的効率よりレジリアンス

日本では、電力の3分の1を原子力に頼っています。地震国で原発をもつ危険性や核廃棄物処理の問題から、原発頼みには無理があつたにもかかわらず。世界の潮流は、温暖化対策やピーコイルを背景に、風力や太陽光などの自然エネルギーに移行しつつあるのに、日本は既得権益の抵抗で実現できなかつた。平時に方針を変えるのは難しかけれど、この震災を変化のきっかけにしなければと思います。

原発での発電量を自然エネルギーでまかなうのは無理だというのはすり込みです。デンマークやドイツなどでは、地域で風力発電を運営する取り組みや太陽光発電を導入するための優遇施策もある。太陽光なら停電でも影響を受けないし、化石燃料不足にも強い。自然エネルギーのポジティブな情報を見た取り組みが必要です。

放射能汚染の恐怖心が高まつていますが、市民も科学リテラシーとリスクリテラシーを持つ重要性を実感しました。私は震災後すぐ、緊急和訳チームを立ち上げ、海外での報道を翻訳してウェブやメールマガジンで流し始めました。

独自に放射線濃度を測つて公開している人もいます。多角的な情報を集めて判断する力が必要です。政府はもつと市民を信頼して情報開示してほしい。

震災が起きるまで、都会に住む人にとってエネルギーは遠いもので、あたかも無限に湧いて出てくるもののように見えていた。でも、今回の福島のように原発のある地域の大きな犠牲のもとに、電気が来ていることがわかつた。

電が終わつても、いらぬ電力は使わない生活を続けていくべきです。

一番大事なことは、「レジリアンス＝弾力性」のある社会にすること。短期的な効率を求めて、遊びやゆとりがない社会になつていた。

電力を極限まで使い、最低限の人員、ギリギリの在庫で最大の成果を出すことだけを重視してきたが、非常時には機能しない。

東北の被災者を見ていると、地域の人々つながりが災害を乗り切る力になつていて。東京で、効率のために排除してきた「人と人のつながり」も、レジリアンスの大重要な要素だと思います。

えだひろ・じゅんこ／1962年生まれ。イー・ズ代表。幸せ経済社会研究所所長。地球環境の現状や問題を環境メールニュースで提供